

国内デビュー20周年 入魂のプログラム!

ショパン VS ラフマニノフ

福間洸太郎《2つの顔》

《ピアノの詩人》と謳われるショパンは、天才少年としてワルシャワで名を馳せ、多くの人々の期待を背負って花の都パリへと渡り、リストなどの知遇を得て才能を開花させる。病気がちで小柄な体格で、性格もシャイだったショパンは、抒情的なピアノ作品と繊細な演奏により、親密な雰囲気の世界のサロンで人気を博すものの、わずか39歳で天逝してしまう。

一方のラフマニノフは、9歳の時に一家が破産し両親が離婚するという波乱の幼少期を過ごす。ペテルブルクの音楽院に入学するも、授業をさぼりスケートで遊び惚けた末に退学処分を受けるなど、なかなかの異端児だった。2mに迫る巨体の持ち主であり、その大きな手は13度（ドから2つ上のラ）を鳴らすことができた。ロシア革命を嫌いアメリカへと渡ってからは、豪快なテクニックを武器に、カーネギーホールなどの大ホール



で当代随一のピアニストとして華々しい活動を展開し、69年の人生を全うした。

人生も演奏スタイルも、何もかもが対照的なショパンとラフマニノフではあるが、その人生をピアノと共に歩み、音楽の未来を指し示すまったく新しい表現を切り拓いたという点は共通している。そして、偶然にも両者の《ピアノ・ソナタ第2番》は、数あるロマン派時代のピアノ・ソナタの中でも金字塔のごとく聳え立つ傑作として、古今の名ピアニストたちを魅了し続けている。

20年という充実のキャリアを重ねてきた福間洸太郎が、対照的なショパンとラフマニノフの傑作から、どのような情景を描き出すのか。深化を続ける名手の“^{いま}現在”を映し出す輝きのピアニズムにご期待ください。



2024年10月5日 [土] 14時開演 福間洸太郎 [Pf] ショパン VS ラフマニノフ



公演詳細